

民家の接客空間からみる〈同居型民泊〉の客室空間

中谷研究室 千年村ゼミ 松本 悠里

序論 第0章 序論

- 0-1 研究背景
- 0-2 研究目的
- 0-3 研究方法
- 0-4 論文構成
- 0-5 研究対象
- 0-6 既往研究
- 0-7 本研究の位置づけ

本論 1章 農家の接客空間

- 1-1 はじめに
- 1-2 接客空間の発展
- 1-3 農家における典型的間取りと、その接客空間
- 1-4 農家におけるザシキ
- 1-5 新しい農家の姿と接客空間
- 1-6 小結

2章 農村民泊の客室空間

- 2-1 はじめに
- 2-2 大分県安心院地区の農家について
- 2-3 既往研究における農泊農家5軒の概要
- 2-4 ダイアグラムによる分析
- 2-5 小結

3章【分析】農家から農泊へ

- 3-1 はじめに
- 3-2 間取りタイプの分析
- 3-3 客室の配置
- 3-4 続き間座敷について
- 3-5 農家の新しい間取りと民泊
- 3-6 小結

4章 町家の接客空間と民泊—富田家を事例に—

- 4-1 はじめに
- 4-2 町家の接客空間
- 4-3 富田家における接客空間
- 4-4 民泊の客室空間（街道沿いの家）
- 4-5 小結

5章【分析】町家から民泊へ

6章【考察】農家と町家と〈同居型民泊〉の客室

- 6-1 はじめに
- 6-2 考察①客室の配置と続き間座敷の存在
- 6-3 考察②客室の性質と家のかたち

7章 結論

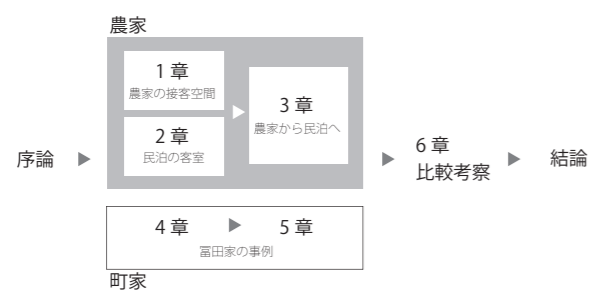


図1. 論文構成

序論

0-1. 研究背景

近年、民泊が普及しているが、世帯主とその家族の住む家の一室を間借りするタイプの民泊について、見知らぬ者同士がひとつ屋根の下でどのように同居するのだろうか、という疑問が本研究の発端である。既往の研究においても、双方のプライバシー・動線等の課題が明らかになっているが実態の把握にとどまっており、その下地となる民家に着目して研究したものはない。本研究は民家との連続性という観点で民泊を捉え、「宿泊施設のためでない建物」に他人と家族がどのように同居するかを分析する手段として建築的視点を活用する。

0-2. 研究目的

本研究では、民泊の下地となる民家についてみる手段として、客を招くという目的を同じくする「接客空間」に着目した。

本研究の目的は民家の接客空間と民泊の客室空間の関係に着目し、〈同居型民泊〉と定義する民泊において、以下の2つを達成することである。

(1) 民家の接客空間との比較から民泊の客室の特性を分析すること
ここでは客室の特性を分析する手段として、以下の2つをみる。

- ①客室がどこに配置されるか。
 - ②それぞれの客室がどのような空間的課題を持つか。
- (2) もとある民家のかたち・性質の違いによって、民泊の客室にどのような違いが生まれるか分析する。

また、本研究における定義として、〈同居型民泊〉とは民泊のうち「住居の一部を客室に利用し、そこに住む家族によって営まれる」ものとし、ホテルや旅館など宿泊施設を用いるものや経営のために増改築を繰り返したものの、マンションの一室や民家一棟を貸し切るかたちのものと区別する。

0-3. 研究方法

本研究は、以下の2種類の民泊の分析によって行う。

- (1) 大分県安心院地区の民泊5軒（農村住宅）
- (2) 愛媛県大洲市の民泊1軒（町家に起源をもつ）

(1)は、民泊の既往研究において空間的側面から最も網羅的に実態調査が行われたものである。「空いている部屋で行う。（お金をかけないで始められる）」ことが推奨されており、民家との連続性から民泊についてみるには好例である。(2)については、町家が民泊になった例については既往の研究がない。これについても最低限度の改装で民泊を始めたことからもとの民家についてみるのによ、また、(1)の農家と母屋が同規模であることから比較に適している。

1章では、西山卯三・大河直躬らの既往の研究から、農家の接客空間についてまとめる。2章では、安心院地区の農村民泊5軒について、①客室の配置場所、②各客室の性質・空間的課題について間取りの分析をおこない、3章では、2章で明らかになった間取りの傾向について、既往の民家研究と照らし合わせて要因の分析を行う。

4章は、町家の接客空間に対する既往研究を述べたうえで、愛媛県大洲市の民泊1軒を対象に上記と同様、間取りの分析を行った。

5章では4章で明らかになった間取りの傾向について、既往の民家研究と照らし合わせて要因の分析を行う。

6章では、3章 農家と5章 町家の比較考察を行う。

0-6. 既往研究

ここでは、研究対象として民泊・民宿に対し空間的視点から研究を行ったものとして、下記の3つについて整理する。

1. 金俊豪・三橋信夫・藤本信義「中山間地域における農村民泊の事態と課題—大分県宇佐市安心院地区を事例に一」（2006年、農村計画学会誌25巻論文特集号）

大分県安心院地区の農村民泊15軒に関するヒアリング・実測調査をおこなったもので、民泊についての多くの研究が、観光の観点や農家の意識調査といったものに終わっているのに対し、空間構成に踏み込んで詳細に調査している点で貴重である。

2. 切山直子、梅谷将太、横山俊祐「ホームステイ型民泊における泊まり方と住まい方の相互性に関する研究」（日本建築学会大会学術講演梗概集、2017）

国家戦略特区における特区民泊の、特にホームステイ型民泊における諸問題とその対策を明らかにしている。

3. 藤本信義らによる、岐阜県白川村荻町集落の民宿・店舗経営に伴う家屋の形態変化の研究

本研究で対象にする一般の住宅とは異なるが、もともと民家だったものが宿泊のための施設へと変容していく過程で、どのような空間的課題があるかと家族が空間に対してどのような要望を持つかについては民泊にも適応可能である。

0-7. 本研究の位置づけ

以上の研究では、民泊（民宿）の空間構成に切り込んだ数少ない例として、宿泊業開始後の空間的課題やその解決手段というテーマが扱われているが、民泊開始以前の民家からの連続性という視点で研究されたものはない。本研究では、民泊の空間についてもとある民家の形に対して民泊の空間構成がどのように発生するかについて明らかにする。

本論

1章 農家の接客空間

本章では、日本の農家の代表的な間取りとして「田の字型」「ヒロマ型」を挙げ、その接客空間の特性について整理した。また、現代に続く農家の接客空間についても把握するため、戦後の新築農家でどのように接客空間が扱われたかについても記述し、日本の農家において接客空間がどのように変遷してきたかについて述べた

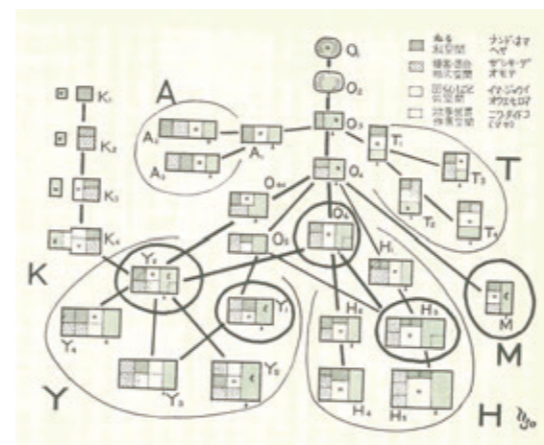


図2. 農家の間取りの発展

2章 農村民泊の客室空間

安心院地区の5軒の民泊（農村住宅）

既往の研究において、とくに空間に対する要望や対応については次のとおりである。民泊開始前後の改築については、5軒中2軒（T、M4邸）が民泊開始以前に離れを改築し、客室としている。今後の設備面に対する要求は、5軒中3軒で客室にトイレ・シャワー・洗面所を作りたい等、水回りに対する要求があった。また、A邸では、離れに客室が欲しいとしている。動線上の問題については、5軒中5軒が部屋と部屋の間仕切りがふすまであることを挙げている。



図3. 農村民泊の間取り5軒

本章では、①部屋配置、②動線について、5軒それぞれのダイアグラムを作成し間取りの分析を行った。その結果、配置については、客室は基本的に母屋1階に配置されるが、離れに客室が整備できる場合は、そちらを優先的に使っており、母屋2階を使うのはまれであることがわかった。また、動線には、母屋の外周ではなく、中央に配置される廊下の有無による影響が大きいことがわかった。廊下は、独立した導線確保を可能にするだけでなく、部屋と部屋の間接地帯の役割も果たす。しかし、A、M4邸におけるトイレへの動線にみられるように、隣り合う空間同士で動線の複雑さが違うことは廊下の有無のみでは説明がつかないことが明らかになった。

表1. 農村民泊における客室の配置

	K	T	T2	A	M4
客室①	母屋1階	母屋1階	離れ	離れ	母屋1階
客室②	母屋1階	母屋1階	離れ	母屋1階	母屋1階
客室③	母屋1階	—	母屋1階	母屋1階	母屋1階
客室④	—	—	母屋1階	母屋2階	—
客室⑤	—	—	—	母屋2階	—

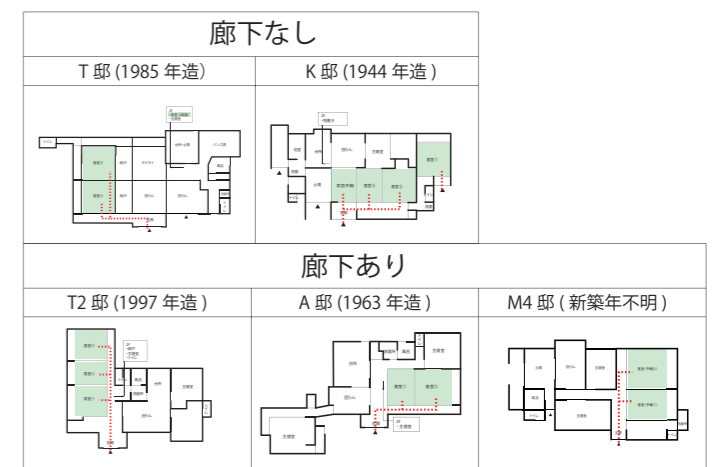


図4. 玄関から客室の動線と、廊下の有無

3章 【分析】 農家から農泊へ

安心院地区の5軒の民泊（農村住宅）

1章の戦後の新築の農家の概要において、四間取りの原型の中心に廊下を置く中廊下型や、さらに個室を分離した公私室型が現れたと述べたが、5軒の民家においても、一部その様子が見て取れ、また、2章において動線確保を左右する中央に配置される廊下の有無は、この間取りと関連付けて理解可能である。

また、隣り合う空間同士で動線の複雑さが違うことは廊下の有無のみでは説明がつかないが、続き間座敷の性質を考えると、通路としての続き間と、最も奥の空間としての奥座敷の差として理解出来る。この続き間座敷については、1階母屋で最も客室が配置される場所であるが、これは法事や婚礼等、ハレの日のための空間として、普段は余らせているものと思われ、この地域においては、「空いている部屋」で民泊を始めることがそれほど難しくなくわかる。

4章 町家ー富田家を事例にー

町家の接客空間について

まず、町家の典型的間取りの例として通り庭型プランを挙げ、それに起因する接客空間の特質をまとめた。町家における接客は、右図参照のように、通りから入ってすぐのミセノマから土間を通りぬけた先まで接客空間が客によって分散している。

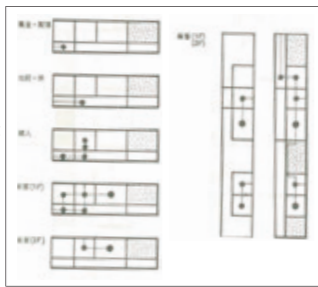


図5. 来訪者の侵入パターン

富田家における接客空間

富田家は、大洲市長浜の本町筋の町家の並んだ通りに位置しており、紺屋を営んでいた。建替え以前の間取りを見ると町家の形式がみてとれる。

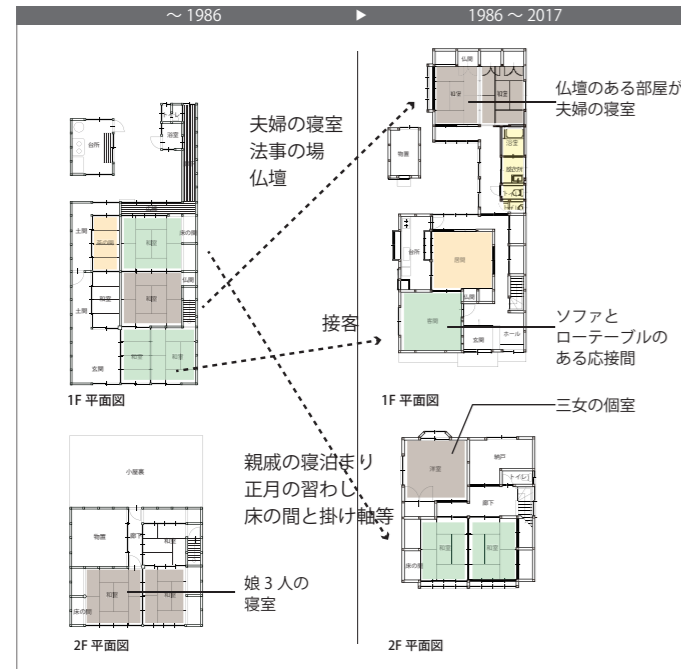


図6. 平面図変遷

富田家における接客空間は1986年建替え前後において以下のような変化があった。

- ①ちよとした訪問客：ミセノマ→玄関先
- ②親しい間柄の者：床の間のある1階座敷→応接間（洋室）
- ③法事：仏間のある1階座敷→1階奥の仏間のある寝室
- ④親戚の寝泊まり：床の間のある1階座敷→2階座敷

もとの1階の続きまの座敷には、夫婦の主寝室、親しい間柄の者の接客、法事、親戚の寝泊まりの役割を持っていたが、建替えにあたり応接間、1階奥の座敷、2階の座敷にその機能が分散した。

民泊における客室空間

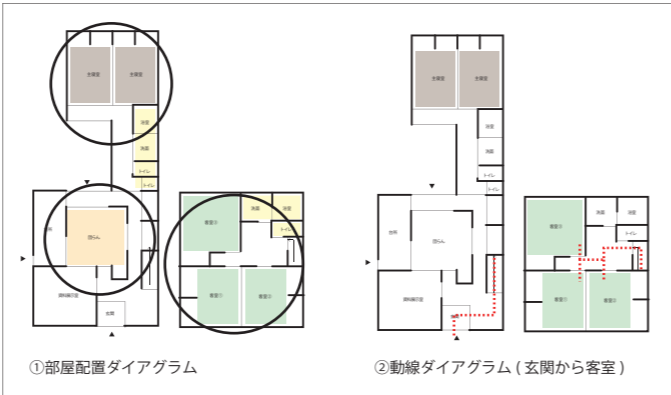


図7. 富田家における客室の配置と動線

富田家の民泊においては客室3室はすべて2階に配置される。また、客室からの動線を見ると、玄関を上がってすぐの階段を使用すればよく、水回りは2階に完備され、居間についても玄関からすぐの場所にあるため、効率的である。その要因として、図7左図に示す機能の分化が挙げられる。1階は手前に居間を中心とした客と家族の共有スペース、1階奥に家族の寝室があり、2階は客室が完全に独立している。

客室3室のうち2室はもともと続き間の座敷、親戚が寝泊まりする際に使用されていた。これは、建替え以前から同じ間取りであるが、機能によってとを辿れば、建替え前の家において1階の座敷におかれてたものであった。建替え以前同じ位置にあった客間は、子供部屋として使われていた。客室のもう一室が以前は三女の個室であったこととあわせて考えると、民泊に使用される客間は、接客などのために普段は余らせていることの多い客間か、家族の個室であったが使うものがなくなった部屋の2種類が考えられるが、その客間についても家族の多いときは個室として使用される用途の変わりうる空間であることがわかる。

5章 【分析】 町家から民泊へ

愛媛県大洲市の1軒の民泊（街路沿い民家）

4章では、富田家について機能の分化が民泊の客室空間の独立性を保つ効果があると述べた。これについて、町家の典型例と1986年の建替えでの変化をみると、町家の典型的間取りであるトオリニワを玄関から奥に伸びる廊下として残すことで手前から奥までの各機能への動線をのこしつつ、手前の和室が並んでいた空間を居間中心の洋間取りに変更したことがわかる。新しく部屋の中心に配置された居間は、前の間取りで同じ機能を持つもので言えば4畳の茶の間であったから、他の機能は奥と2階に押し出されることになり、仏間や夫婦の寝室は奥に、いわゆる接客のための続き間座敷は2階にあるものに統合された結果、機能の分化が完成している。

家族の住居に対する要望に答えた間取りが、結果的に民泊において他人が同じ居住空間に住むことにおいても役に立っている。

6章 【考察】 農家と町家と〈同居型民泊〉の客室

本章では、1から5章で得られた結果をもとに、町家と農家それぞれの性質を持つ民泊の比較から、その客室空間の配置と特性の2点について考察する。

客室の配置と続き間座敷の存在

民家の中のどこが客室空間に使われるかについて、世帯主の要求の高かったのはより自分たちの寝室から分離された離れであったが、実情としてあいている部屋で民泊をスタートさせるとき、客間があいていれば使われることが農家・町家の性質をもつ民家の調査からわかった。これは、法事を民家で行う慣習の残る地域においてひろく適応可能だと考えられる。また、農家で2階がほとんど客室に使われなかったのに対し、町家では2階すべてが客室として使われていた。これは、農家ではなれに対する要求が大きいことも考えると、与えられた敷地の大きさによる差が現れていると考えられる。

客室の性質と家のかたち

客室の性質や空間的課題は、農家・町家の典型的間取りに規定されるのではなく、むしろ戦後都市からはじまり農村にも広がっていった住宅改善の議論における公室私室の分離などと関わりが深い。以下の図は典型的間取り分類と各個室がどの程度分離されるかにより分類した。

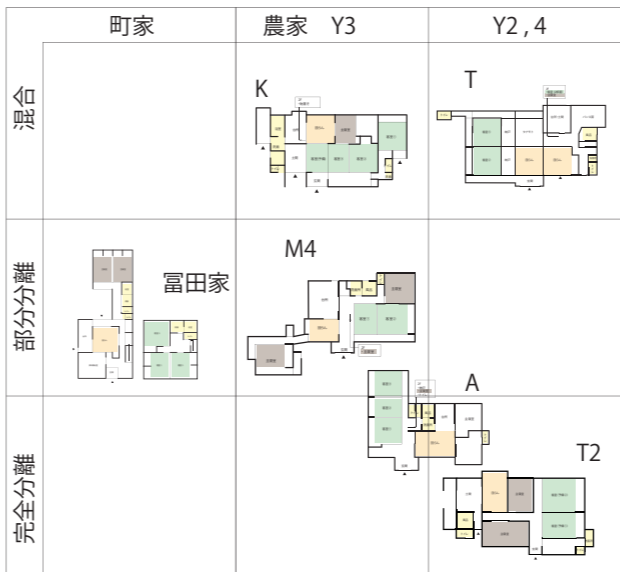


図8. 平面図変遷

7章 結論

本論文は、〈同居型民泊〉において客室がどのような性質を持つかを民家と民泊の連続性から捉えたものである。民泊については農家と町家の2つを扱い、民家のかたちや性質が民泊の客室空間にどのような影響を与えるか比較・考察を行った。

大分県安心院地区の農村民泊については、①客室の配置について接客空間としての続き間座敷の役割と動線設計、②客室の空間的課題について農家の新しい間取りという観点から考察した。

愛媛県大洲市の民泊1軒を対象に上記と同様、間取りの分析を行った。また、対象とする建物が新築時（1986年）にどのような意図を持って建てられたか、どのように生活に使われていたかに対する調査を加えることで、民泊に使用される空間がどのような変遷を辿ってきたかが明らかになった。

5章では4章で明らかになった富田家の事例に関し、客室が2階に配置されていることと町家の間口の関係について述べ、機能の分離に関してトオリニワ形式と居間中心型の共存の結果、家族の主寝室と客と家族の交流の場、客室の3つが明確に分離される構造が産み出されたと考察した。

最後に、農家と町家の比較から、客室の配置は続き間の座敷によって決まること、間取りの典型的タイプよりもむしろ公私室の分離と客室の空間的課題の関わりが深いことを述べた。

参考文献・出典

参考文献

- ・中谷 礼仁『セヴェラルネス+：事物連鎖と都市・建築・人間』（鹿島出版会、2011）。
- ・住総研『受け継がれる住まい：住居の保存と再生法』（柏書房、2016）。
- ・吉田 桂二『間取り百年：生活の知恵に学ぶ』（彰国社、2004）。
- ・吉田 桂二『建築のかたちが決まる理由：空間の謎を解く日本 VS 西洋』（鳳山社、1998）。
- ・大河 直躬『住まいの人類学：日本庶民住居再考』（平凡社、1986）。
- ・扇田 信『住居論』（彰国社、1987）。
- ・森 隆男『住まいの文化論：構造と変容をさぐる』（終風舎、2012）。
- ・選書会『今和次郎「日本の民家」再訪』（平凡社、2012）。
- ・臨町教育委員会（徳島県）『四国地方の町並み』（東洋書林、2005）。
- ・西山 知三『日本のすまいI,II,III』（勁草書房、1975）。
- ・西山 知三『これからのすまい：住様式の話』（相模書房、1947）。
- ・鈴木 充『日本の民家.jp 第7巻』（学習研究社、1981）。
- ・長浜町誌編纂会『長浜町誌』（長浜町誌編纂会、1975）。
- ・上野 千鶴子『家族を容れるへこ家族を超えるへこ』（平凡社、2002）。
- ・山口 恵一郎、『日本国誌大系 九州1』（朝倉書店、1976）
- ・島村昇、鈴鹿幸雄、他『京の町家』（鹿島出版社、1971）
- ・金俊豪・三橋信夫・藤本信義「中山間地域における農村民泊の事態と課題ー大分県宇佐市安心院地区を事例にー」（農村計画学会誌 25 巻論文集号、2006）
- ・梶島邦江「スキー民宿の子どもの住み方に関する研究」（日本建築学会計画系論文報告集、1990）
- ・青木正夫他「中流住宅の平面構成に関する研究 第19報 一下宿屋造りについてー」（日本建築学会学術講演梗概集、1997）
- ・切山直子、梅谷将太、横山俊祐「ホームステイ型民泊における泊まり方と住まい方の相互性に関する研究」（日本建築学会大会学術講演梗概集、2017）
- ・高橋ふさ子、藤本信義、楠本信司「民宿・店舗経営に伴う合掌家屋の形態変化とその要因 ～岐阜県白川村荻町集落を事例として～」（日本建築学会関東支部研究報告書、2000）
- ・菊池亮、藤本信義、本庄宏行、高橋ふさ子「合掌集落における生活・生産空間の変容に関する研究 ～合掌集落における民宿経営世帯の住み方～」（日本建築学会大会学術講演梗概集、2001）

参考Webページ

- ・住総研 HP 研究論文・実践報告書アーカイブ (http://www.jusoken.or.jp/paper_archive.html#anc2015、2017.9.25 閲覧)
- ・住総研 HP 重点テーマについて (http://www.jusoken.or.jp/important_theme_archives.html#theme2015、2017.9.25 閲覧)
- ・文化庁 HP 有形文化財（建造物） (http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/yukei_kenzobutsu/、2017.9.25 閲覧)
- ・建物を地域と文化に 登録有形文化財建造物制度の御案内 (http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/yukei_kenzobutsu/pdf/bunkazai_pamphlet_6_ver02.pdf、2017.9.25 閲覧)
- ・建築物の評価と保存活用ガイドライン (<https://www.aij.or.jp/scripts/request/document/070810-1.pdf>、2017.9.25 閲覧)
- ・選書会+中谷 礼仁『化モノ論ノート』 (<http://tenplusone-db.inax.co.jp/backnumber/article/articleid/1412/>、2017.10.19 閲覧)
- ・国土交通省 観光庁、宿泊旅行統計調査報告、平成 23 年 3 月 (<http://www.mlit.go.jp/common/000137233.pdf>、2017.10.19 閲覧)
- ・厚生労働省、資料 6 簡易宿所について (<http://www.mlit.go.jp/common/001115560.pdf>、2017.10.19 閲覧)
- ・厚生労働省 医薬・生活衛生局 生活衛生・食品安全部 生活衛生課、平成28年11月、民泊サービスを始める皆様へ～簡易宿所営業の許可取得の手引き～ (<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinanzenu/0000142360.pdf>、2017.10.19 閲覧)

図版出典

- 図1. 筆者作成
- 図2. 西山 知三『日本のすまいI』（勁草書房、1975）、p34、図37
- 図3. 筆者作成
- 図4. 筆者作成
- 図5. 島村昇、鈴鹿幸雄、他『京の町家』（鹿島出版社、1971）p177、図1
- 図6. 筆者作成
- 図7. 筆者作成
- 図8. 筆者作成
- 表1. 筆者作成